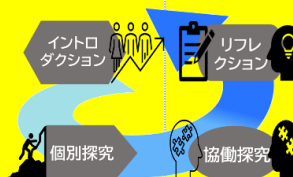


# 令和8年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：25010

「学ぶ力」	
実態	成果
	<p>◇全国学力・学習状況調査の結果より、「PC・タブレットなどのICT機器を使った学習」に関して、肯定的な回答が多く、ICT機器を活用した学習に対して積極的な児童が多いという実態がある。</p> <p>◇学校独自の児童アンケートでは、「発表すること」に関して肯定的な児童が多く、各教科での小グループ交流や全体交流などの話し合いを中心に効果的な活動を行うことができている。</p>
	<p>◇全国学力・学習状況調査の結果より、「算数・理科」の学習に対して否定的な回答が多く、大切な役に立つものと認識はしていても、難しさなどの理由で学習に前向きになれない児童が多い。基礎的な学力の定着をはかる必要がある。</p> <p>◇学校独自の児童アンケートでは、「発表すること」へ肯定的な児童が多いが、学年が上がるごとに進んで発言しようとする児童が減っていく。それと同時に、意欲的に家庭学習に取り組む児童も減少していく傾向にある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く 相互承認の感度〉の現状と課題	
	<p>◇全国学力・学習状況調査や学校独自の児童アンケートより、「将来の夢や目標をもっている」「友達関係に満足している」など未来への期待感をもっているが、現在の環境に満足できたりしている反面、「自分にはよいところがない」と自己肯定感の低さも伺える。児童の自己肯定感を育てていくために、教師が適切な場面とタイミングで児童の考えを価値付けたり、児童同士の交流の中で認め合いが生まれる場を設定したりしていく必要がある。</p>
「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力	
学ぶ楽しさや分かる喜びを感じ、能動的に学びに向かう力	
取組	課題探究的な学習の推進 に向けて
	<p>◇授業構築の視点</p> <p>(1)「学ぶ楽しさや意義を実感できる教材化・単元構成」 →子どもたちが学びの楽しさや必要性を感じ、自分から動き出すような学習展開 ICT機器の活用 →習得したことを実感したり活用したりする場の設定</p> <p>(2)「能動的に学ぶ子どもを育てるための教師の関わり」 →課題を自分ごととして捉え、学びの見通しをもつ →自己選択・自己決定しながら学びを進め、他者を求め行動する</p> 
取組	自治的な活動の充実 に向けて
	<p>①学びの基盤づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自己存在感の感受</li> <li>・共感的な人間関係の形成</li> <li>・安心、安全な風土の醸成</li> </ul> <p>②自分たちで創り出す活動の設定</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自主性を大切にした委員会活動</li> <li>・満足感や達成感が得られる学年独自の活動、取組</li> <li>・異学年への発信の場の保障</li> </ul>
「学ぶ力」の育成の一層の充実を図る ICTの活用について	
	<p>◇主に(1)について、「個別最適な学び」を充実していくために、個々のペースや習熟度に合わせていろいろなツールを活用していく。また、「協働的な学び」を充実させるために、各ツールの特徴を生かし、多様な表現手段を選択できるようにする。</p> <p>◇主に、②について、「自治的な活動を」を推進していく上で、思考を可視化したり、共有・共同編集による対話を充実させたりしていくためにオクリンクプラスやキャンバ等を活用していく。</p>

<本プログラムの実行に向けて>

